

始良市特産品協会 会員インタビュー

株式会社 天元 様



株式会社天元様は、火山白土を配合した洗顔料「きんごきんご」を中心に、数多くの化粧品を製造・販売されている。代表取締役社長の又野佳洋子様にお話を伺った。

「火山白土洗顔 きんごきんご」の特徴

——(株)天元様は、昭和62年（1987年）に創業、今年で31年目を迎えました。早速ですが、主力商品である「火山白土洗顔 きんごきんご」について教えてください。「きんごきんご」が他の洗顔料と違う点はどのようなところにあるのでしょうか。

「通常の洗顔料では使っていない「白土」を配合しているのが「きんごきんご」の特徴です。白土には鉱物特有の吸着力があり、この吸着力が汚れをとってくれます。そこが他の洗顔料と大きく違うところです。

一般的に、汚れを落とすには3つの方法があります。研磨すること、溶かすこと、そして吸着すること。この3つのうち「きんごきんご」は吸着力を特徴としていますので、お肌にすごく優しい洗顔料です。」

きんごきんご開発秘話

——「きんごきんご」はどのようにして誕生したのでしょうか。

「株天元は、私の父が創業した会社ですが、最初に商品化したのは白土を配合したクレンザーです。若い頃、旧海軍に勤務していた父は、船板を磨くときに白土が大変効果があったのが印象に残っていたようでした。錆を落とすのに有効で、また、白土はもともとが自然のものなので、環境保全にも役立つ。

あるとき、鹿児島県特産品として百貨店の催事に出品したところ、練り状のクレンザーを使っていたお客様から「台所で使っているうちに手が綺麗になった」「肌のきめが細かくなって手が白くなった。顔にも使いたい」との声が寄せられるようになりました。

それらがきっかけとなって洗顔料の開発に向かったのです。」



——御社の使用されている白土は、本当に真っ白ですね。

「白土は一般的にシラスと呼ばれていますが、その多くは数万年前のものです。しかし、私たちが使っているのは40万年前に堆積したものです。長い期間をかけて、環境変化によって真っ白になって自然に粉碎された白土。それが私たちが使用している白土ですね。」

——この白土はどのように見つけられたのですか。

「父が定年退職後に車を運転しているときに、たまたま通りかかってこの白土を見つけたそうです。そこで父は旧海軍勤務時代を思い出して、山の所有者の方にその話をしたところ、所有者の方からかつて旧海軍に卸していたと聞かされて、白土との再会に感激すると共に、ぜひ活用したいと所有者の方に訴えたのが、出会いです。」

——定年退職後に事業を興すというのは大きな決断だったと思います。そのようなお父様は、当時の又野社長にはどのようにお見えでしたか。

「やれ！やれ！という感じでしたね（笑）何か始めようとするときにどんどん考えが膨らんでいって、それが楽しくなってしまう私の性格はどうやら父譲りのようです。」

——ところで「きんごきんご」というネーミングはどのように生まれたのでしょうか。

「最初、父が「きんご」という商品名を提案しました。それには大反対しました（笑）。せめて繰り返して「きんごきんご」とすることで、少し可愛らしくしたつもりです。

鹿児島弁でピカピカとか、美しく光る、という意味ですが、今となってはとても良いネーミングだと思っています。」

「特産品」から「化粧品」へ

——又野社長はもともと美容師をされていたとお伺いしました。美容の仕事を辞めて、(株)天元に入社することになった経緯を教えてください。

「父が病気になってしまって、自分の会社のことが心配だという相談がきたんです。私は、美容の仕事がすごく好きだったので、辞めたくなかった。

でも、父を手伝うべきだとの思いもあり、ここで決断しなかったら後悔しそうな気もしました。美容師の経験を生かして洗顔料づくりのアドバイスをしてきたのも私です。

そのような経緯もあって、入社することにしました。」

——本社を鹿児島市から始良市に移転されて、10年以上経過しました。始良市の環境はいかがでしょう。

「自然に囲まれて、鳥のさえずりも聞こえる。そういう環境の中で仕事ができることにすごく幸せを

感じます。でも、社長に就任して以来、一心不乱に仕事に専念してきましたので、周りの環境を見渡せる余裕が出てきたのは、最近のことですね。」

——美容師の経験はどのように活かされてきたと考えておられますか。

「洗顔料をはじめとする自社の商品は、これまで「雑貨品」や「特産品」としての認識が強かったと思います。それを「化粧品」としても認識してもらえるように努力してきました。

日本人の肌は、昔とは変わってきているように感じています。昔よりも乾燥肌の方が増えてきたのではないのでしょうか。だから、洗顔料もそれに合わせて改良してきました。」

「天元」という言葉に込められた思い

——「天元」という語には、万物の源、囲碁の碁盤の中心という意味があるようですね。

「天元という会社名は囲碁を趣味としていた父が名付けたものですが、始良市はちょうど鹿児島県の「おへそ」、中心に位置していますね。海も山もあって清らかなところ。それが始良市です。

今後もこの恵まれた環境の中で、品質にこだわり、ナチュラルで、人にも環境にも優しい商品をつくっていきたいと思います。」

※「きんごきんご」をはじめとする(株)天元の商品は、市内の物産館、空港売店、ホテル売店のほか、ホームページからも購入可能です。

お問い合わせ

〒899-5655

始良市船津1595-2

(株) 天元

電話 0995-67-1010

<http://www.tengen.co.jp/index.html>

取材者・文責

〒899-5492

鹿児島県始良市宮島町25

始良市役所 商工観光課 商工振興係

電話 0995-66-3145